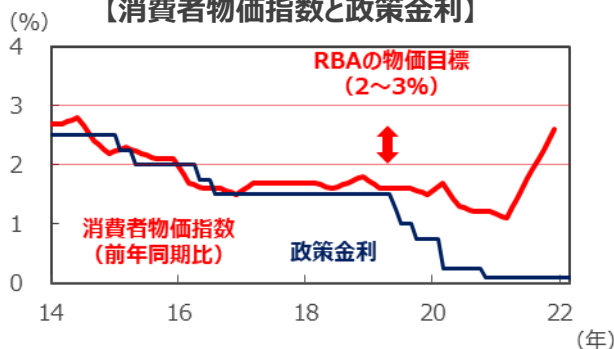


今日のトピック 豪中銀は金融政策を据え置き
物価と賃金の上昇見込みから、今夏にも利上げか
**ポイント1 豪中銀は政策金利を据え置き
豪州経済は引き続き底堅い**

- 豪州準備銀行（RBA）は3月1日の金融政策決定会合で、政策金利である翌日物金利の目標を0.1%で据え置きました。
- RBAは声明文で、世界経済は新型コロナの影響からの回復途上であるものの、足元のウクライナ情勢は新たな不透明要因となっており、コモディティ価格の上昇がインフレを押し上げていると指摘しています。
- 一方で、新型コロナのオミクロン型の感染縮小により、豪州経済は引き続き底堅く推移していると評価しています。

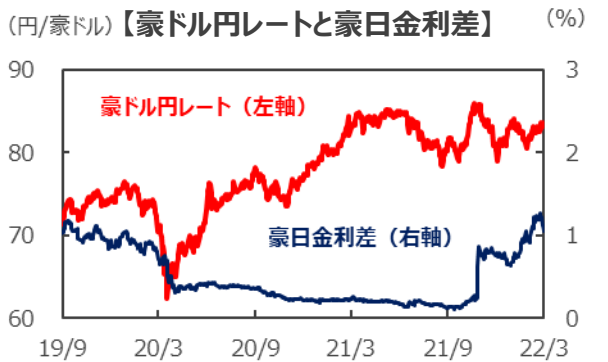
【消費者物価指数と政策金利】


(注) 消費者物価指数は2014年1-3月期～2021年10-12月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。
政策金利は2014年1月～2022年3月。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ポイント2 GDPは2四半期ぶりにプラス
労働市場も力強い回復が続く**

- 2021年10-12月期の実質GDP成長率は、前期比+3.4%と2四半期ぶりのプラス成長となりました。新型コロナのデルタ型の拡大期に導入された、外出規制が昨年10月に解除されたことで、個人消費が回復しました。
- 2月に発表された1月分の雇用統計では、失業率が4.2%と歴史的な低水準で、労働市場も力強く回復しています。RBAは、失業率が更に低下し、賃金は一層上昇すると見えています。

【豪ドル円レートと豪日金利差】


(注) データは2019年9月1日～2022年3月2日。
豪日金利差は2年国債利回りの差。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 今夏にも利上げか、豪ドルは年後半にかけて堅調に推移する見込み

- 豪州の消費者物価指数は、RBAの物価目標の範囲に収まっているものの、今後はエネルギー価格の上昇などに伴ってインフレの上昇も予想されます。このためRBAは、実際のインフレ率が持続的にRBAの目標に収まるまで利上げは行わないとしています。今後の物価や賃金の動向を見て、今夏にも利上げを開始すると予想されます。一方、日銀は当面現在の金融緩和を継続すると見られます。また、足元のエネルギー価格の上昇は豪ドルにとって追い風となることから、豪ドルの対円相場は年後半以降、堅調に推移すると見込まれます。

**ここもチェック! 2022年3月 1日 ウクライナ情勢下、切り返す日本株式市場 割安圏での値固めが進もう
2022年2月28日 ロシア・ウクライナ情勢を受けた世界経済・金融市場の見方の整理**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。